

## 東京 IPO 特別コラム

---

2021年1月4日 Vol.171

### 期待高まるIPO市場、今年もユニークな企業の登場に期待

いつになく静かな年明けとなりました。皆様明けましておめでとうございます。本年も本コラムを宜しくご愛読賜りましたら幸いです。新型コロナウイルスによるパンデミックが続く中で迎えた2021年。英国で変異種が見つかりなおも不安感が残る中で迎えたお正月ですが、まずは混乱状態の中でも迎えることができた喜びを皆様とともに味わいたいと思います。

さて、昨年は93銘柄のIPOが実現しました。IPOを実現させることができた経営陣の皆様におかれましてはIPO後初の新年かと思えます。上場初値がついた時の感動を胸に株主となられた皆様の期待に応え、業績向上に向けた経営に今年も邁進されようとしているものと拝察致しております。コロナ禍で社会生活やビジネス環境に変化が見られる中で経営はすべての企業に共通していますが、とりわけIPOされたばかりの企業にとっては成長期待が求められがちです。そうは言っても企業経営には紆余曲折がつきもの。理想と現実とは異なって参りますので、仮に予想したように経営のコントロールができなかった場合において今度は何らかの説明が求められます。

そこで重要になってくるのがIPO後のIR活動となります。好奇心旺盛な投資家は企業が発信する情報を求めており、特に上場したばかりの企業はビジネスの内容がまだ十分に理解されていない場合が多く、株価も乱高下しやすい点が特徴です。上場時に高まった投資家の関心その後徐々に薄れがちですが、ぜひIPO後のIR活動を通じて成長の可能性をアピールして頂き多くの投資家にファンになってもらうように努めて頂けたら幸いです。個人投資家のみならず中小型株を対象とする機関投資家のファンドマネージャーにとってIPOしたばかりの企業の内容を完全に把握するには相当に時間を要すのかも知れません。IPO後の企業の成長評価を通じてなされる株価の形成が発行体企業と投資家の阿吽の呼吸でなされることが健全な株式市場を形成するものと期待されます。

今年は丑年。引き続きブルな1年となるのかはともかく、投資家の皆様の期待はますます高まりを見せています。IPO市場も昨年に増して成長意欲の高いユニークな企業の登場で活気ある取引が続くと期待されます。米大統領選も不正選挙問題で揺れてきましたが間もなく決着がつきます。波乱の幕開けを覚悟してなのか静かに始まった大発会。昨年の相場展開を受けて始まった今年の株式相場は一体どのような展開を見せるのでしょうか。コロナ禍がまだ続きそうなことから全体株式相場への不安感はまだまだ残りますが、マザーズ銘柄を主体としたIPO市場への期待感はますます高まるものと考えられます。本コラムでは今年も引き続きそうした状況を随時取り上げて参りたいと考えておりますので宜しくごお願い申し上げます。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)